

2022 年度 桐朋学園大学音楽学部音楽学科 対面入試  
音楽学専攻 入学試験問題〔作文〕

下の文章を読んで設問に答えなさい。

現代の私たち、とりわけ音楽業界に身をおく者にとって、五線譜はあたりまえすぎるほど身近な存在であるため、五線譜が存在しなかった頃の感覚に疎くなっており、したがって、五線譜が登場したことの意義<sup>1</sup>について思いを巡らせることはないかもしれない。しかし、少し考えればわかるように、江戸時代の日本には五線譜はなかった。

もちろん、近世までのさまざまな伝統邦楽にも、音楽を記録するための譜面はあった。しかし伝統邦楽の世界では、基本的には口伝が主であり、従としての譜面には備忘録的な役割しか与えられていない。なぜなら、口伝という情報伝達方法は、細かいニュアンスや微妙なタイミングを伝えることができる点で、きわめて優れているが、同じことは紙媒体の譜面ではまったく不可能だからである。

ただし、口伝はモノとして残すことができない所に弱点がある。ある時、ある場所でのパフォーマンスは、その時、その場かぎりで、たちまち消え去ってしまう。精確に再現しようとしてもいくらかの誤差がでる。したがって、口伝による音楽では変化はどうしても避けられず、つねにローカルな存在となり、良くも悪しくも流動的<sup>2</sup>である。

問1 下線1「五線譜が登場したことの意義」について、あなたの考えを述べなさい。

問2 口伝による長所と短所として筆者が挙げていることを簡潔に記しなさい。

問3 下線2、「良くも悪しくも流動的」とは、具体的にどのようなことを意味していると思われるか。楽譜の存在という観点から、あなたの考えを述べなさい。

問4 他の芸術分野と比べた時に、音楽芸術にはどのような特質が認められるだろうか。「楽譜」「演奏」「解釈」という3語を必ず用いながら、あなたの考えを述べなさい。